

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200613		
法人名	社会福祉法人ふたば福祉会		
事業所名	グループホーム せんだんの家		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町江栗馬場 9-1		
自己評価作成日	令和 5年 11月 29日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の年間計画を作成している。毎月担当者が企画し楽しんで頂いている。</li> <li>・特養の各委員会に在籍しており、内部研修や外部研修、動画研修等に参加し技術を高め知識を広げている。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和6年1月18日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東日本大震災及び原発事故に伴う双葉町からの移転という背景のなか、馴染みの美容師さんによる定期的な散髪、双葉町の民生委員や婦人会の方々も定期的に来訪され、良好な関係を継続している。感染症防止により外出の機会は減ったが、下肢筋力体操・風船バレー・塗り絵や謎解きゲーム・ミニ卓球・エステ体験等々、事業所内で楽しめる時間を設けている。</li> <li>2. コロナ禍により外出は控えているが、中庭で併設施設の利用者とお茶を飲み、庭先の畑作業をとおして戸外に出て、近所の方と交流を深めている。屋外行事が制限されるなかでも、外食の機会(鮎の釜飯)や紅葉狩り、家族の協力を頂いて外泊やお墓参りなどにも行っている。</li> </ol>
---

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員で話し合い作った理念を目の付く所に掲示し共有と実践につなげている。	共有空間のフロアに法人理念と事業所理念を掲示し、職員・利用者に加えて家族や来訪者への周知も図っている。年度ごとの目標を策定し、理念を具体的な実践につなげられるように努めている。職員個々の年度目標も理念を基軸としており、半年ごとに振り返りの機会ももっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナは落ち着いてきているが、感染防止の為交流はしていない。状況に応じて交流できるよう努めていく。	隣接する民家から、野菜やゆずなどの差し入れがあり、お礼に事業所の敷地で採れた柿を差しあげるなど、日常のなかでさまざまな交流を図っている。自治会にも加入しており、地区の清掃奉仕にも参加し地域の一員としての活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の人々に向けて活かせる機会は、現在の所はないが実践や研修に参加し活かせるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	・今年度より開催しているが文書での報告が長く率直な意見も出てきていない。要望や意見があればサービスの向上に活かしていく。	コロナ禍では書面開催だったが、直近の3回は対面で開催している。外部評価や自己評価結果の報告に加え、写真を用いた行事報告では委員から様々な意見や感想が出ており、事業理解の促進につながっている。会議報告書は職員で回覧し、情報を共有している。	介護事故やヒヤリハットを報告しているが、委員会資料にも記述したうえで説明することが望ましい。また隣接の特別養護老人ホームで開催しているが、利用者の生活や職員の状況等を知るうえでグループホームでの開催や見学等の機会の提供を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議に合わせ、広報を作成しケアサービスの取り組みや事業所の実情を伝えている。 ・措置入所の要望を受け入れるなど、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	町担当課は運営推進会議にて必要な情報交換を行うとともに、日常的に電話やメールにより連絡を密に図っている。処遇困難事例や虐待が疑われる事例等についても町担当課と協議のうえ、隣接の特別養護老人ホームと連携し、措置入所等の対応も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしない事を実践している。 ・身体拘束の対象となる言動や行為について委員会や研修参加で全員が周知している。 ・玄関の施錠は自動ドアで中からは解除が必要となっている。他のドアからは自由に入出入りできるようにしている。	指針を定め、ケア向上委員会の名称で拘束廃止に向けた会議を毎月、研修会を年2回開催している。ケア向上委員会では身体拘束に加え、行動制限にならないようなケアの工夫や改善案などについても協議を深め、拘束を必要としないケアを実践している。	指針は、ふたば福祉会として策定しており、開催も特別養護老人ホームと合同で行われている。グループホームの特性を踏まえた事業所単独の指針の策定と委員会の開催を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福一	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的ケア向上委員会やZoomでの研修で理解、周知している。</li> <li>毎月のミーティングの中で職員どおしで虐待についての意見交換を行い普段から話し合う環境が出来ている。</li> </ul>	指針を定め、ケア向上委員会の名称で虐待防止に向けた会議を毎月、研修会を年2回開催している。また、ほぼ全職員が出席する毎月の職員ミーティングでは、日常場面における不適切ケアの有無について共に確認し合い、虐待のないケアに努めている。	指針は、ふたば福祉会として策定しており、開催も特別養護老人ホームと合同で行われている。グループホームの特性を踏まえた事業所単独の指針の策定と委員会の開催を期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修などがあれば参加学ぶ機会を作っている。</li> <li>現在は活用には至っていないが必要とあれば活用していけるよう努めている。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかりやすく説明し、納得を頂いてから契約をしている。</li> <li>不安や疑問、改善点があればその都度説明し理解して頂けるよう努めている。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者に意見や要望を伺い希望に沿うようにしている。</li> <li>家族の面会時や電話で要望を伺う機会を設けている。</li> </ul>	対面による面会を再開しており、管理者も家族来訪時に意見や要望を伺っている。毎月の家族へのお便りも定期的に担当者を代えて、味わいのある文面作りに傾注している。また、利用者の希望を伺い、ドライブや行事食の実施、表情や仕草からの要望の把握にも努めている。	重要事項説明書「13.サービス内容に関する相談・苦情」の苦情解決責任者及び苦情受付担当者は実務に適合した人選が望ましい。併せて福島県国民健康保険団体連合会と双葉町役場担当課等も加え、相談・苦情受付の門戸を広くすることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員から意見を聞く時間を作っている。その意見や考えを運営に活かすよう努めている。</li> </ul>	管理者は毎日の業務や休憩の時間なども活用し、職員からの意見聴く機会を設けている。勤務表も希望や家庭環境等を配慮したうえで作成している。利用者と同じ疾病歴をもつ職員の具体的な経験からの学びがケアに反映できた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回職員個々の勤務状況について把握し給与や昇給を決定しやりがい等、向上心の持てる環境に努めている。</li> </ul>		
13	福一	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の質を上げるために職員の能力や知識に応じた内外の研修の機会を与えている。</li> </ul>	キャリアパス制度を設け、年2回の個別面談の場でも学びの希望を聴取している。本人の希望と管理者等からの推奨により研修計画を策定し、内部・外部研修への参加を促している。業務遂行に必要な資格取得の費用は事業所が負担している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協議会、県社協が開催する研修などに参加し、他事業所と交流している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人や、家族の要望に耳を傾け、本人に合った対応で安心出来るよう関係づくりに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・電話やお便り等で生活状況や体調などを伝え、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の状態や家族の思いに添えるよう職員間で話し合い、自分で出来ることは行なって頂き、出来ないところは職員と行う事で自立支援を支えたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・居室のモップ掛け、おしぼりや洗濯物たたみを共に作業したりレクリエーションなどを行い笑顔につながる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月の請求書にお手紙やホームでの写真を添えて日々の様子をお伝えしている。 ・かかりつけ医以外の受診はご家族へ協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの美容師さんに髪の毛のカットをお願いしている。 ・退職した元職員に行事に参加して頂き慣れ親しい人との関係を継続している。	東日本大震災及び原発事故に伴う双葉町からの移転という背景のなか、双葉町の馴染みの美容師さんによる定期的な散髪、双葉町の民生委員や婦人会の方々も定期的に来訪され、良好な関係を継続している。双葉町広報紙も利用者人数分送付されており、好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士の相性、価値観の違いに留意し、必要に応じて職員が間に入る等、パブリックスペースでの生活にも注力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後でも来所や相談に応じる等連絡を取り合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの価値観や生活圏を把握し、本人の生活に対する意向を尊重している。 ・日常での支援や個々の生活スタイルや表情、言動などからニーズの発掘をしている。	希望や思いを伺い、利用者の特技を活かしながら一緒におやつ作りや家族の協力のもと外出・外食の機会ももっている。「昨夜亡くなった夫が夢に出てきて…」という話を家族に伝え、さっそくお墓参りが実現できた事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族からの聞き取りを含め入居者の状態を把握し、本人らしさを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常生活の場面やパブリックスペースでの言動など把握し他職員と情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当者会議やケース、カンファレンスの場でケアプラン原案に基づく支援の方向性を共有、家族の同意を得ている。 ・ケアマネを中心に居室担当者やリーダー間で情報共有し各職員と周知している。	毎月の職員ミーティングで利用者個々の生活状況と支援内容の確認を行い、短期目標期間の6ヶ月ごとに「モニタリング記録表」でニーズの充足度と今後の対応をまとめ、介護計画の見直しを行っている。ケア提供の内容はPC内で管理し、介護計画を意識したケアの記録に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・計画に沿った支援が行われているかモニタリングし各職員はケースに記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・体調や機能の変化等、職員間で共有し家族に相談しながら柔軟かつ臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ感染防止に努めながら毎月利用者が楽しめる行事を行っている。ボランティアも少人数の受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医での定期受診をしている。協力医以外の受診は家族が同行して頂いている。 ・利用者の体調や状態に応じて受診相談が出来る体制が整っている。	入居時に、これまでのかかりつけ医と協力医療機関を選択できることを説明している。歯科医の往診が定期的にある。受診の結果は月1回手紙で家族へ報告している。家族対応の受診の際は、家族から口頭で受診結果を伺い、医療受診ノートを活用するなど職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・職員は状態変化の早期発見に努めている。 ・訪看が毎月1回来所しバイタル測定や状態観察を実施し夜間の緊急時や急変に対応できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は家族や病院と密に情報交換や相談が出来るよう努めている。 ・入院時情報連携シートを活用し情報の共有にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に看取りを行っていないことを説明しているが時期を見ながら意向の再確認を行い職員間で話し合っている。 ・事業所としては出来ることを伝え支援に努めている。	看取りは行っていない。入居時に終末期の意向を書面で確認し、事業所でできることを丁寧に説明し理解を得ている。状態の変化に応じ同法人の施設へ入所できることを伝えている。病院や施設を希望された場合には情報を提供し適切に対応できるようチーム支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルの確認を行い共有している。 ・内部研修を行ったり、ミーティングで話し合い実践できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的避難訓練を行っている。</li> <li>特養との合同避難訓練では、水害時の場合も含めて協力できる体制が出来ている。</li> </ul>	<p>年2回法人全体で水害を想定した総合避難訓練を実施し、事業所では夜間火災を想定した訓練を行っている。近隣の事業所と災害時の協力体制を構築している。非常食は3日分、事業所と法人本部で備蓄している。日本防災協会より指導を受け、法人が各事業所の災害と感染症に関するBCPを作成している。</p>	<p>法人が作成したBCPを活用し、事業所独自で防災訓練を実施し、そこで出た課題について繰り返し見直しをかけていくことが望まれる。また、火災を想定した訓練だけでなく、年間計画を作成し様々な災害を想定した訓練を実施されることが望まれる。</p>
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉遣いに気を付け、一人ひとりに合った声掛けを心掛けている。</li> <li>否定することなく傾聴し自尊心やプライバシーを大切にしている。</li> </ul>	<p>共有空間には法人と事業所の理念を掲示している。接遇研修を行い、利用者の尊厳を意識したケアに取り組んでいる。居室へ入室する際には、ノックや声掛けを行い丁寧な対応を徹底している。個人情報の取扱いについて、責任ある管理を徹底している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分がどうしたいか自己決定ができるよう出来るだけ自分で選べるような支援を行っている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>気分や体調を考慮し、無理強いすることなく本人のペースで過ごして頂いている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的散髪を行っている。</li> <li>顔の産毛、鼻毛、爪の身だしなみのケアを細目に行っている。</li> <li>基本的には自己決定で決めて頂いている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の献立メニューを見えるところに掲示している。</li> <li>食べたい物があれば職員が買い物を代行し購入し提供している。</li> <li>施設内の庭でおやつやお茶を飲んだり気分転換を楽しんで頂く環境を整えている。</li> </ul>	<p>基本は、隣接している特別養護老人ホームの外部委託先の食事を提供しているが、時には利用者と一緒に育てた畑の野菜を収穫し、一緒に調理をして、食事を1日の大切な活動の一つにしている。テイクアウトやおやつ作りなど、食事に季節が感じられ、楽しい食事となるよう支援している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎食ごとの摂取量、水分量を記録し少ない場合は声掛けし好みの物を提供している。</li> <li>個々の状態に合わせた食事形態で提供している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後、声掛け介助にて口腔ケア義歯の洗浄を行っている。</li> <li>・定期的に訪問歯科受診があり口腔内、歯の磨き方、歯ブラシ指導を実施している。</li> </ul>		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の排泄パターンを記録し時間の把握や訴えに応じた対応を行っている。</li> <li>・トイレ内では手すりを利用し自分で立ててもらい支援し機能維持に努めている。</li> </ul>	排泄チェック表や、利用者の表情やしぐさなどから、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。オリゴ糖や食物繊維等を摂取し、自然排便ができるよう取り組んでいる。オムツやパッドの利用について、できる限り負担のないよう適宜見直しを図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水分量を記録し少ない時は声掛けをし摂取して頂いている。</li> <li>・乳製品やラクチュロースシロップを使用し薬に頼らない取り組みを実践している。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の気分や体調、入浴状況に合わせた入浴の声掛けをしている。</li> <li>・入浴の拒否がある場合は本人の意思を尊重し日時の変更など柔軟な対応をしている。</li> </ul>	週3回入浴を行っている。拒否がある時には、無理せず日時を変更している。機械浴が設置され、誰もが浴槽で温まることができる。入浴は利用者の思いを聴き取る時間と捉え、会話をしながら楽しめるよう心掛けている。ゆず湯など季節が感じられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人に合わせた室温調整を行い良い睡眠が出来るよう心掛けている。</li> <li>・お休みになる前に排泄やパットの確認を行っている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員二人体制で薬の確認をし服薬介助を行っている。</li> <li>・薬の変更時は申し送りや連絡ノート等で全職員が周知できるようにしている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来る方には自室の掃除やモップ掛けをお願いしている。</li> <li>・ホームの畑の作物を収穫したり料理を職員と行ったりしている。</li> <li>・毎月ではないがお顔のマッサージパック等も行っている。</li> </ul>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナウイルスが緩和され家族と外出や外泊の機会が徐々に出てきた。	コロナ禍により外出は控えている。中庭で併設している施設の利用者とお茶を飲むなど交流を図っている。庭先の畑作業を通して戸外に出て、近所の方と野菜の交換や挨拶を交わしている。利用者が希望した時には、家族へ連絡し家族の協力でお墓参りや外出を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホームでお小遣いを預かり、本人の希望の物を購入する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持っている方は居室で電話をしている。使い方が分からない方には職員が支援を行っている。 ・家族からの贈り物が届いた際等事務所から本人と直接電話で話すなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室やフロアを入居者が適した空間に調整している。 ・みんなで使用する場所は汚れた時などは清掃し清潔に保っている。	共有空間には、利用者と職員が協働製作した季節が感じられる作品が飾られ、暮らしの場を整えている。YouTubeで利用者の好きな歌を流すなど居心地よく過ごせるよう工夫している。廊下にはソファが設置され、1人で落ち着いて過ごせる場を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・必要に応じて席替えなどを実施している。 ・廊下にベンチやソファを置き入居者同士がくつろぎゆったり出来る空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	・自宅で使用していた家電や家具を個々の要望に合わせた配置にしている。 ・家族の写真を飾ったりレクリエーションで作成した作品を飾り過ごしやすい環境づくりに努めている。	居室は全室南側に面し、やわらかな日差しが注ぎ込み、明るさと温かさが感じられる。使い慣れた家具を設置し家族の写真を飾るなど、自分らしく過ごすことができる部屋づくりとなっている。本人と家族の意向を確認しながら、安全に配慮した家具の配置にも気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム全体がバリアフリーになっており廊下やトイレ、浴室には手すりが付き安心して歩行が出来る環境になっている。 ・廊下には季節を感じられる装飾などを飾り楽しんで頂く工夫を行っている。		